



人工授精で生まれたオウサマペンギンのヒナ(中央)＝鴨川シーワールド提供

鴨川シーワールドのオウサマペンギン 人工授精のヒナすくすく

「世界で初」孵化に成功

鴨川シーワールドは、飼育中のオウサマペンギンの人工授精を行い、産卵と孵化に成功したと発表した。ヒナは順調に育っている。オウサマペンギンの人工授精での産卵と孵化について、同園は「世界で初めて」としている。

同園によると、人工授精と精液採取は、米国シーワールド(フロリダ州)傘下テーマパーク「ブッシュユガーデン」種保存研究所のトッド・ロベック博士の研究チームと共同で行った。

同博士と鴨川シーワールド飼育員は、オウサマペンギン数羽から昨年7月に精液を採取し、メス数羽に人工授精を行った。そのうち1羽が産卵し、昨年9月に

孵化した。遺伝子検査をした結果、採取した精液による人工授精で生まれたヒナであることが確認されたという。

ヒナは親から口移しで魚をもらって成長し、親とほぼ同じ80gほどにまで成長した。飼育員の手からえさをもらう訓練をしており、1日に約700gを食べて順調に育っているという。今年夏ごろには、ヒナ特有の濃い褐色の羽毛が大人の羽に生えかわり、独り立ちする見通しだ。

鴨川シーワールドは「オスから採取した精液で人工授精し、孵化も可能なことを検証できた。この成果で得られた技術と知識が、ほかの絶滅危惧種を含む鳥類に応用できる可能性がある」と意義を説明している。

(川上真)